

# 関西インカレ観戦記

新 21 絹田清昭

本日から長居競技場で27年度の関西インカレの残り4日間の熱戦の幕が切って落とされた。1日目のハーフは既に4月22日に終わっていて阿賀君が執念の走りで見事6位入賞を勝ち得ている。この模様は既に観戦記にまとめたので、今回は5月14日からの4日間の戦いの模様をOBから見た観戦記とした。但し、最近長居競技場はセレッソ大阪の本拠地でもあり、投擲競技は第2競技場で実施ということで、投擲選手は非常に可哀想な仕組みになってしまった。従ってメイン競技場の競技しか見ることができなかつたし、また全ての競技を記載することも紙面の関係でかなわないので、決勝種目を中心として記載したこと、そのため偏った観戦記になってしまったことをご容赦いただきたい。

## 5月14日（木）2日目

### 2部 1500m 決勝：藤田 4分4秒75 7位、 植田 4分9秒79

植田(3)、藤田(2)が出場、持ちタイムでは植田が3分台で十分上位入賞可能であったが、1日2本はきつかったのか体が重そうで途中から後退、代わりに藤田がするすると後方から上がっていき、最後もかなり伸びて7位に入った。藤田はこの予選でも、3000m 障害でも感じたが非常にクレバーなレースをする。最後のスパート力も持っており今後の楽しみだ。また決勝には進めなかったが濱野(2)の予選レースも見ごたえがあった。4分4秒30は大学ベストであるが高校時代の記録は更にいいとのこと。頼もしい2年生コンビだと言える。2人とも今シーズン中にも3分台に突入してほしいものだ。

### 女子 10000m 決勝：秋山(4) 38分6秒18

一発レースで秋山が出場。全国区の立命の菅野七虹が独走する中、前半は中段につけていたが途中から遅れてしまい自己記録を1分以上下回った。本人は不本意だったろうが、気温が高くどの選手もタイムを落とした過酷なレースであった。普段の練習からウインドスプリント等キックの効いた走法を工夫するともう少し楽にスピードに乗っていけるように思う。駅伝に向けて是非頑張ってもらいたいものだ。

この他男女100m 予選、400m 予選、女子100mH 予選、男女400m 予選、10種前半が行われた。

男女100mでは全員予選敗退。男子短距離を支える田中竣も11秒13で敗退。厳しいレベル。女子400mでは西田が順調にトップ通過するも、男子400mは菊井が50秒74でも予選敗退。レベルが高い。女子100mHでは宮崎、森下が共に予選通過。森下は14秒34と歴代3位の大学ベスト。しかし準決では向い風とはいえ二人ともタイムを落としてしまい敗退。いいところまで来ているがこの辺りが次の課題か。男女400mリレーは共にかろうじて予選通過。最後粘り抜いての通過は見事。男子は10種の100mで11秒15の自己新を出したばかりの宮崎を1走に起用。この辺りに今年の苦しさが表れている。2走の田中が順位を上げ、3走の高橋、4走の黒崎が順位を維持して決勝進出を決めた。特に黒崎は和歌山大学の10秒7台の選手に追い込まれたが必死に粘って順位を死守。タイム42秒10は良く走ったが昨年のベスト40秒00よりも2秒も遅くこれが今年の実力。OB報告を担当してくれたいたアンカーの黒崎君に声をかけたら、このために「頑張ってきました」と良い顔をして答えてくれた。女子400mリレーも2走の西田が作った貯金を活かして粘ったが、残念ながら今一步及ばず予選落ち。タイムは48秒83(歴代7位)とまずまずだがやはり47秒台でないと戦えないようだ。男女ともバトンパスはスムーズで今の実力は出し切った。

10種前半は、吉田、宮崎とも100m、走り幅跳、400mなどで好記録を出し、特に宮崎は自己新ペースで2位、吉田は6位につけた。明日以降が楽しみだ。

## 5月15日（金）3日目

朝から晴天で暑いくらいの天候の中3日目が始まった。

### 女子400m決勝：西田 55秒17 3位

西田はスタートからスムーズだったように見えたが、昨年のインターハイ優勝の大阪成蹊大の青山が抜け出し、最後は予想通り実力者3人の競り合いとなった。結果自己記録に少し及ばず3位に終わった。1位青山の記録もさほど良くなく西田としては悔いの残るレースであったかも知れない。

### 2部5000m決勝：丸岡 8位

タイムレースで3人が出場した。阿賀、丸岡が出場した2組では、兵庫県立大の村本の実力が飛び抜けており、それに元報徳監督の鶴谷氏が監督を務める大阪経済大が食い下がるという図式。前半からハイペースでレースは進み、トップ集団の最後につけていた丸岡が遅れ始め、代わって中段の10位辺りにつけていた阿賀が前を食って入賞圏内か、と思わせる展開であったが、途中から阿賀が重くなり後退、代わって丸岡が徐々に盛り返し始め、最後の一周を10位くらいで通貨。残り200mでは9位、残り100mでも前と10m以上開いていたが最終段ロケットに点火、8位に食い込んだ。

### 3段跳び：2部：瀧瀬 2位、永田 4位、山下 8位、女子：永久 5位

男子は山下（4）、永田（3）、瀧瀬（2）の強力トリオが出場。大量点を目論むも、思ったほど伸びずむしろ苦しい展開。そういう中、瀧瀬が6跳目に14m83の大ジャンプ（自己新、西日本インカレB標準突破）を見せ2位に入った。山下も頑張って8位に食い込み有終を飾った。

女子の永久（M1）は昨年のリベンジをと今年に臨み、いいジャンプを見せていたが残念ながら5位に終わった。大学院でも競技を続ける頑張り屋。もう1年頑張つて有終を飾ってほしいものだ。

この他、男子110mH、男女1600mリレー、女子砲丸投げ、10種の後半が行われた。

**男子110mH**は大和、宮崎とも予選落ちしたが大和は自己新（15秒75）で西日本インカレB標準はクリアした。（宮崎（15秒24）は既にクリア）。女子砲丸投げは孤軍奮闘する麓が出場し12m36と健闘するも予選落ち。男子1600mリレーでは、田中竣、植田でトップに躍り出て3走も死守するも、最後で力尽き僅差で組3位となり決勝進出を逸した。タイムは3分20秒を切る3分19秒81。アンカーは他校は遅くとも49秒台。よく健闘したが今の力ではこれまでか。4人平均で50秒を切り3分17秒前後まで行かないと2部とは言えしんどいようで隔世の感がある。あと一人0秒5は縮めたい。**女子1600mリレー予選**は、1走の短距離・障害の森下がいいところで帰ってきて、2走西田が例に

よ

り爆走、トップに躍り出て2位以下に3mの差をつける圧倒的な走りを披露。3走明瀬、4走米田も粘り3分52秒40の歴代3位で決勝進出。3分50秒を切ると全日本インカレ出場となるが・・・？

### 10種競技：宮崎 2位（6211点、自己新、歴代3位）、吉田 5位（5252点）

110mHまでは宮崎が自己タイをマークするなど順調だったが、吉田が円盤で失敗、次の棒高であろうことか記録なしという事態となり失速。宮崎は最後の1500mでも激走し6200点台の自己新で2位入賞は見事。1位は京都教育大の森本（62回生森本君の弟）で7000点超。1部の記録を上回っていたので、通常年なら2部優勝というレベル。来年が楽しみ。宮崎は1500mの後ゴールで倒れ込みしばらく起き上がれないので心配した。力を振り絞ったのだろう、ガッツのある大学ベストの走りだった。

吉田は自己記録（5989点）より大きく落ち込みショックは大きいだろう。特に棒高跳記録なし、が致命傷だった。これが跳躍競技の怖いところだ。また前の競技の出来が次の競技に響くところも10

種の特徴。闘志と平常心を2日間保ち続けられないといけないのが、長丁場の10種競技の難しいところであり、キング・オブ・アスリートと称される所以でもある。吉田は主将としての重責も大きかったと思う。まだまだ試合は続くので気を持ち直して頑張ってもらいたい。10種競技は息の長い技術の必要な競技。極めるのはこれからだ。

## 5月16日（土）4日目

昨日からの雨もギリギリ10時ごろ上がったが、時折ぱらつく不安定な天候。その影響か、湿度は高かったが気温が23度と涼しい一日だった。大会もいよいよ佳境を迎え正念場の日である。

### 2部走幅跳：永田（3）6m59、滝瀬（2）6m67 予選落ち

永田は記録上は3位（7m17）で上位入賞が期待されたが不発で二人とも予選落ち。特に永田は7mジャンパーであり百戦錬磨。予選の1跳目が大事なものは重々わかっているが踏切が合わない日があるのだろう。五輪レベルでも悲劇が起きる。どうすれば平常心でスタートが切れるのか永遠の課題なのだと思う。二人のポテンシャルはこんなものではないので捲土重来を期してほしい。しかし三段跳に続いてかなりの得点を目論んでいただけに痛い結果であった。

### 2部3,000m障害決勝 日比3位、藤田8位

タイムレースとなった1組目、藤田（2）はペースが速すぎると判断し最後尾から追走。徐々に順位を上げ、最終周30m差を逆転しトップでゴール。見事なレース運びだった。1500mに続きしたたかなレース運びを見せ9分23秒と自己記録を15秒も縮めた。天晴れ！ この走りで2組8位を食った。

これに大いに刺激を受けたらしい（本人談）期待の日比（M2）は最後のインカレ。2組目の後方からスタート。これも先頭がハイペースで入ったためだが、途中じっくりと中盤で待機、数名団子で最終周に入る。バックストレッチで3人に絞られ3番目に最後の水壕を越えるが僅差。最後伸びれば十分優勝のチャンスがある。が惜しくも競り負け3位。タイムは9分14秒67。自己新ならびに目標だった日本学生個人選手権の標準記録をクリア。おめでとう。長い間3000m障害を支えた日比が表彰台に上がり、また藤田が日比の後継者として名乗りを上げたことを印象付けた3000m障害レースだった。

女子200m予選 西田（棄権）、宮崎 予選落ち。 西田は本命レースに集中するため棄権した。

2部200m予選 田中竣、高橋 田中は粘って2位で予選通過、高橋は及ばず

2部400mH予選 藤原54秒72、清水55秒66（自己新、西日本インカレB標準突破）も予選落ちだが二人とも好タイム。因みに1972年1部昇格当時の2部400mH優勝タイムは56秒台。アンサーカーからタータンヘサーフェスが変わったとはいえ隔世の感あり。二人とも2年生で今後が楽しみ。

女子400mH予選 西田、楽に1位で決勝進出。立命のライバル王子田、武庫川の藤原との争いか

2部200m準決勝 田中竣（4）22秒21 善戦するも4位で決勝進出ならず。残念。

### 女子800m準決勝 米田（3）、明瀬（2）決勝進出 沢井（2）準決落ち

1組目、米田、沢井は後方から。鐘が鳴って米田は前へ出るも沢井は大きく後退。最後の直線で米田は混戦を抜け出し2位でゴール。タイムは2分17秒33。2組目の明瀬は中盤で1周目を通過、バックで上がって行き残り100mから前の3人を綺麗に抜き去ってトップでゴール。2分14秒37（自己新、歴代2位、西日本インカレA標準突破）は決勝進出者でトップ通過。2週目のレース運びにはセンスを感じる。2人も決勝に残り期待が膨らむ。こういうのはいい。

2部 800m 準決勝 植田 1分 59秒 28、余裕で決勝進出。1500m と違い動きがいい。川植は予選落ち。

2部 走高跳 佐野 (4) 1m90 予選落ち。2部とは言え自己記録が 2m を超えるのが 10人というハイレベル。佐野の自己記録は 1m96 だが 1m95 を超えると決勝に残った。あと一步まで迫ったが残念。

しかし走高跳のスペシャリストとしての頑張りは立派の一言だ。

2部 円盤投げ 上野 (2) 38m01 (自己新) 5位。柳田 (2) 31m25、吉田 (4) 30m95 予選落ち、

上野の競技は見るができなかったが、投擲のスペシャリストとして良く入賞してくれた。まだ2年生、円盤とも合わせ投擲を支えてほしい。

女子円盤投げ 麓 34m62、入賞ならずも、大学ベスト、学内新、関西インカレ A 標準突破。立派。

2部 400m リレー決勝 宮崎、田中、高橋、黒崎 41秒 91、7位。

上手くバトンをつなぎ 10秒台ランナーを欠く中予選の記録を更新し短距離の伝統をつないだ。大きな入賞だ。しかし昨日 10種の 1500m で倒れ込んだ 1走の宮崎のスタミナには恐れ入る。

3日目は、女子 800m 準決勝、男子 3000m 障害決勝のレースが印象に残った。男女ともに 2年生が活躍。女子は明瀬がいい勝負勘を持っているように見えた。3年の米田のリードの下、まだ実力を開花させていない澤井とともに精進してほしいものだ。このトリオから目が離せない。男子短距離の 400m リレーも良く入賞した。やはりリレーが強くないと応援していても盛り上がらない。得点争いは大きく離されてしまったので昇格はかなわないが、明日の最終日来年につながる戦いをしてほしいものだ。

## 5月17日(日) 5日目(最終日)

いよいよ最終日。決勝種目が目白押し。泣いても笑っても今日で終わり。

2部 10000m 競歩：山本 (4) 46分 48秒 56 4位、自己新、西日本インカレ B 標準突破。

岡野 (M1) 52分 23秒 00 8位。清原 (2) 途中リタイヤ

暑い中をトラック 25周歩くという気の遠くなるような競技だが、山本は 20秒以上自己記録を更新し見事入賞。岡野も粘り抜いて 8位入賞を勝ち取った。しかし結構タイム差が出る競技で山本はまだ競技歴も浅いにも拘らずこの結果。きっと適性があるのだろう。貴重な得点源として精進を願う。

2部 800m 決勝：植田 1分 52秒 30 優勝！

4月に 1分 51秒 25の学内新をたたき出した好調をそのまま持ち込んだ。1周目中段につけ、2週目から上がって行き、最終コーナーで 2位、そこからスパートし見事に差し切った。完勝である。応援のボルテージも最高潮に達した。貫録の勝利とでも言おうか、王者のレースであった。

1部 800m では関西大の戒田が昨年の日本インカレの覇者、京大の桜井を押さえ 1分 49秒 12の関西学生新を出した高速レースだったが、植田の記録は一部でも 7位に相当する好タイムで、一部でも十分戦えるレベルであることを証明した。ここまで来れば夢の 1分 49秒台で走ってほしいものだ。

2部 10000m 決勝：阿賀 31分 33秒 84 5位入賞！ 日比 32分 14秒 29、丸岡 32分 54秒 02

一発勝負の 10000m は 5000m と同じく兵庫県立大の村本が高速で先頭を走り、大阪経済大 1人が追走。5000m で懲りたのか、他の有力選手は村本をあまり追わず体力を温存。阿賀、丸岡は中盤で待機作戦。しかし日比はなんとその前の集団で中盤まで走るという積極性を見せた。昨日の 3000m 障害でホッとしてしまっていないのがいい。丸岡は今回は浮上できず徐々に遅れたが、代わって 5000m で体が重かった阿賀が粘る粘る。最後は帽子、サングラスまで投げ捨てて激走。ハーフ 6位

に続いて5位入賞。この暑さで31分の半ばはかなりの好タイム。良く走った！

## 2部棒高跳：吉田 4m00 8位入賞。自己タイ。

10種では記録なしに終わった吉田が4mを一発クリア。自己タイで8位入賞。最後に意地を見せた。この種目では新22の小田垣さんの4m50が40年以上学内記録となっている。大学院進学と聞いているのであと3年、少しでも肉薄してほしいものだ。正月の懇親会で語った小田垣先輩も期待しているはず。

## 2部砲丸投：上野 11m54、吉田 10m83 決勝に進めず。二人とも自己記録に及ばなかったのは残念

やはり12mがひとつの基準。自己記録では上野(12m00)までで8人。惜しかった。

## 女子800m決勝：米田 2分15秒31 自己新4位、明瀬 2分15秒37 5位。

期待のレースだったが、最後の1周に入るときのポジションが悪くバックストレッチでもなかなか前へ出られずに、力が出しきれないまま4位、5位に終わったという印象。優勝タイムも2分13秒台で二人にもチャンスがあった。惜しいレースだった。

男子もそうだが、1500mと違い、残り1周時の人数が多いので、ここでの位置取りがシビアに勝敗やタイムに効いてくる。優勝した植田は流石にいい位置取りをしていた。これも実力である。レースを重ねてきたかなランナーに成長してほしい。女子800mは突き抜けた存在がない現状では、2分12秒あたりで頂点に立てる。2分10秒なら圧勝だ。今年が飛躍のチャンスであろう。

## 女子400mH：西田 58秒45 2位 自己新、学内新、兵庫県記録、日本選手権 A 標準突破

レースは100mHチャンピオンの武庫川女大の藤原が400mハードルに進出してきたので、更に混戦の度合いが増した。その藤原がやはり綺麗なハードリングで先頭に立ち、西田と宿敵立命の王子田、更には同じく立命の梅原の4人の争い。しかし藤原のスピードが最後まで落ちず好タイムで完勝。西田は自己記録を0秒50も縮め、長年鬼門であった長居の最終ハードルも綺麗に超えた見事なレースを展開したにも拘らず2位に終わった。しかしライバルには勝ったし達成感はあるのではないかな？ これにて4年間神大陸上部の顔であった西田文香の関西インカレでの個人戦が終了。

400mに続いて表彰台に上った。後は1600mリレーでメンバーを全国につれて行けるかどうかだ。

## 女子走幅跳：藤井 (3) 5m60 決勝進出ならず。5m60 というのは決して低いレベルではない。藤井の自己記録は14番目に相当。6mを超えている選手はわずか1名。それほど5m60~6mにひしめいているという証拠だ。昨年は入賞している。数少ない貴重なジャンパーの一人としてもうひと頑張りしてほしい。

## 女子1600mリレー：3分51秒36 8位 全日本インカレ標準突破！

森下、西田、米田、明瀬というオーダーで、予選から米田と明瀬が入れ替わった。少しでも前で戦い、全カレ標準を突破するという西田の決意の表れか？予選タイムは3分52秒40。全日本インカレの標準は3分52秒。あと0秒40の更新が必要。1人0秒1縮めれば夢が叶う。スタンドからではわかりにくいですが、西田を筆頭に気合入りまくりだった筈である。レースは森下が頑張るもほぼ最下位で西田へ。西田が激走するも4位ほどにしか順位が上がらない。さすが決勝。他校も強い。米田、明瀬が必死に食い下がっているのが良くわかる。最後は最下位でゴールしたがタイムは3分52秒ギリギリのように思えた。固唾を飲んで電光掲示板を見つめる4人。出た！3分51秒36、見事標準突破で全国行き！予選記録を1秒04更新した。大した連中だ。全国の舞台でこのメンバーで走れる、皆そう思ったことだろう。最後に大きな感動を生んで、今年関西インカレは終了した。

## 【所感】

総じて見ると、男子は短距離のエース級がごっそり抜けて、最初から差がついての4番手という予想であったが、結果もほぼそのようになった。内容はプラスマイナスあるが、予想と結果はほぼ一致。やはり1部昇格となると短距離を中心にもっと分厚い布陣で臨まないと難しいと改めて感じた。これは当日頑張るとか頑張らないとかいうレベルの話ではなく、どう戦力整備するか、の話なので、勧誘の仕方も含め、一度腰を落として戦略を練り直す必要があるように思える。個々の選手は皆良く頑張ったし、吉田主将はじめ幹部の連中も良くリードしたと思う。1部昇格がならなかったことに對し責任を感じ過ぎないようにしてほしい。例えば森主務は短短パートのリーダーも兼ねており、1年生の時から期待されていたが故障の為、リレーメンバーにすら加わるができなかった。無念の思いは察するに余りある。しかし森はじめ現幹部が戦略的に勧誘を強化したことにより、部員も増え今の2年生の活躍につながっている。また優秀な1年生も多数入ったようだ。実はこういうことは見落とされがちだが何よりの部の強化に繋がっている。現幹部の大きな功績だ。誇りに思っている。

女子は、誤解を恐れずに言うと、西田という傑出した選手が引っ張ってきた4年間で、その総決算の年であったと言える。昨年よりリレー2種目を筆頭に、各種目で着実に力をつけてきたのが良くわかる。皆西田主将の背中を見て成長していったのであろう（もちろんそれだけではないが）。西田と一緒に走るのもあと少しだがいい伝統も育ちつつある。先輩の背中を見て、やれると信じて努力するという伝統だ。エースがいなくなっても、その伝統が受け継がれていけば選手は育っていく。神戸大学陸上部の女子は立派に独り立ちし、他校からも一目置かれる存在となった。全体で10位という成績は8位という目標には届かなかったものの立派の一言。大いに誇りに思う。楽しみな選手も多い。後輩たちは来年に向けて貪欲に精進して欲しいものだが、まずは9月のインカレだ。

2部の戦い全体を俯瞰してみる。2部は京教、龍谷、摂南が120点で三つ巴の争い、神大はかなり離されて60点前後で4位という予想であった。結果は京教が179点と他を圧倒。龍谷と摂南は121点と115.5点。神戸は4位とはいえ、上位3校とは明らかに大きな差があった。確かに昨年38点を取った短距離が僅か2点となり、これが敗因のように思われるが、それだけではない。短距離が昨年並みでも実はしんどかったはずだ。上位3校は跳躍・投擲でも穴がない。来年は降格した阪大、天理大と摂南大、神戸の争いとなるしそうならないといけないが互角に戦えるか？  
やはり目標は120点確保であろう。

120点を目指すなら、短距離40点、中長距離30点、跳躍20点、投擲20点、混成10点くらいが目安か？今回ここに到達しているのは中長距離と混成だけである。特に投擲の層の薄さという慢性的な悩みは依然として存在する。短距離が強化されても投擲が積み残されては1部昇格はない。基本的に上記を目指して次のステップが考えられる。

- ①各種目の層を厚くする（これは勧誘しかない）。特に弱いところは充填補強する必要がある。
- ②関西インカレ標準を各種目で複数で突破する
- ③各種目でのエースの養成

これには少なくとも2年はかかると見たい。今の2年生が4年生のときに2部優勝を取りに行くくらいの戦略が必要だ。来年、上手く1部昇格が実現すればそれに越したことはないのだが……。更に言えば、1部昇格が最終目標ではなく1部定着が目標にならないといけない（流石に1部優勝とは言えない）。しかし上記①②③が満たされると1部定着も夢ではない。そうなるためにはシツコク言うが、勧誘での重点的な戦力整備が何よりも優先されなければならないだろう。幸い現幹部の努力で勧誘努力が伝統として定着しつつあるので大いに期待したい。

もちろん、大会で上位に行くことだけが神戸大陸上部の目標ではない。いろいろな部員が混在できて走り甲斐、跳び甲斐、投げ甲斐、飲み甲斐？のある陸上部であるべきだ。楽しくなければ部活ではない。しかし陸上競技の性格上、競い合うことから逃れることはできない。少しでも高いところで競い合い、そこでしか得られない興奮を感じ取るのは大きな喜びだ。これからもバランス良い部運営に努めていただき、その中から1部昇格のエネルギーが充満していくのを期待している。

以上